

吉太夫藤永の時安永七年知行を召放された。

ヤマモトセイベエ 山本清兵衛 前田利家に仕へて四十石を領した。子孫藩に世襲する。

ヤマモトテンコウ 山本天行 諱は繼、號は石居。額信之丞の三子で、山本抱中の後を承け、京師に遊び、刀圭の術を高階氏に受け、天保十三年前田美作守孝本の醫となり、元治元年藩侯に侍して祿百石を受けた。明治二年三月九日六十二歳を以て歿。

ヤマモトトシナホ 山本俊尚 通稱久左衛門。大坂再役に町口で槍功があり、祿千二百石に至り、その職は御使番・御旗奉行兼組外裁許・宗門奉行等に轉じた。家系は外孫久左衛門その後を受け、世々藩に仕へる。

ヤマモトトモモリ 山本友守 通稱與三太郎・左次馬・九郎太夫・又九郎。寶曆十年父源太夫の遺知二百石を受け、十三年表小將、安永七年金谷表小將横目を經、九年百石を加へて表小將番頭となり、天明三年物頭並に進み、四年歿した。

ヤマモトナガシゲ 山本長重 通稱牛之助。瀬兵衛。久助長時の二子。前田利常に仕へて明曆三年百石を賜はり、組外に班して近習の職に在つたが、後病の爲に之を辭し、元祿六年歿した。その子は基庸である。

ヤマモトナガトキ 山本長時 通稱久助。初め越前府中に於いて佐々成政に仕へ、天正十二年前田利家に仕へて、祿百二十石を賜はり、馬廻組の士となり、利長・利常に歴仕し、元和七年三月十九日歿した。長男五兵衛長吉後を襲ぎ、寛永十六年前田利次に從うて富山に徙り、次男瀬兵衛長重は前田利常に仕へた。

ヤマモトナガヨシ 山本長吉 通稱五兵衛。父は長時。前田利常に仕へて祿百二十石を襲ぎ、壽福院附となり、次いで代官に轉じ、寛永十六年淡路守利次に富山に隸した。

ヤマモトヒコエモン 山本彦右衛門 江戸の町人。祖先彦右衛門は尾張に在つて、天文十一年初めて前田利久の指物製造の命を受け、子彦右衛門は利家に從うて加賀に來り、同じ御用を勤めたが、その子孫に至つて江戸に住するに至つた。

ヤマモトヒコシロウ 山本彦四郎 正徳・享保の頃大坂の人三池市兵衛は算學に長じ、自ら三池流と稱した。市兵衛事によりて金澤に來り、彦四郎が算學に造詣するを見、その奥儀を之に傳へた。故に彦四郎は金澤に於ける三池流算法の初傳で、更に之を高弟西永廣林に傳へた。

ヤマモトホウチュウ 山本抱中 諱は丹、字は黃中、文玄齋と號した。壯年京師に往き吉益南涯に古醫方を學び、又紀伊の華岡青洲に外科を習ひ、西長崎より東江戸に往來し、歸つて業を開き、傷寒論要解を著した。老後閑居書を讀み字を學び、嘉永五年四月廿三日壽七十を以て歿した。

ヤマモトマゴサブロウ 山本孫三郎 ↓コンドウチュウノジョウ 近藤忠之丞。

ヤマモトマサタケ 山本政武 通稱求馬・定右衛門。前田吉徳の側室心鏡院の甥で、延享二年正月新番に召出され、四年新知百石を得て組外に列した。子伊右衛門の時天明二年出奔して斷絶した。

ヤマモトマタシロウ 山本又四郎 傳次の子。慶長十三年前田利長に仕へ、二百石を領し、延寶元年八十三歳で歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヤマモトモトオキ 山本基興 通稱源太。父は基庸。享保元年新番組御歩となり、十年父の歿後二百石を襲祿して組外に列し、十四年廿六歳を以て歿した。

ヤマモトモトツネ 山本基庸 通稱源太郎。源右衛門。初諱は惟明、後持明院基時に就いて書訣を得るに及び、基庸と改めた。字は子遠、號を龜井庵・善淵堂・瀟離鶴又は榜齋・榜翁と呼んだ。初め延寶五年三月前田綱紀の歩士に召出されて書物役を命ぜられ、元祿七年父瀬兵衛長時の遺知百石を襲ぎ、組外に編せられ、後正徳三年加恩共に二百石を領し、享保十年七月十五日六十九歳を以て歿した。基庸學を室鳩巢に受け、詠歌を好み、その臨池の技は藩政以來の第一人者と稱せられた。微妙公遺事一名微妙公夜話の著がある。

ヤマモトモリヨシ 山本守令 通稱源太郎。左次馬・中務。天明五年幼少で父又九郎友守の祿三の一を襲ぎ、八年本知に復し、組外に列し、後御馬廻に轉じ、御近習番・表小將・大小將横目より次第に昇進して、文政元年御歩頭に任じ、二年三月遠慮を命ぜられ、七年二月御免、直に御馬廻頭となり、九年六月又遠慮、次いで御免、天保九年歿した。

ヤマモトヤエモン 山本彌右衛門 大聖寺藩士。初名主馬。祿七百石、組頭を勤めた。初め加賀藩に仕へ、大坂兩役に陣出した。その妻は前田慶次の女お花の方であつた。萬治二年七十一歳歿。

ヤマモトヨコウ 山本與興 加賀藩の老臣村井氏の醫師で、諱は美知。文化十四年六十五歳を以て歿した。餘技として樂燒の抹茶々碗を製し、逸品もあつた。この與興に子なく、前田土佐守の醫師石浦桂庵の弟宗悦を養うて家を襲がしめ、後に亦與興と稱したが、醫術・製陶並に庸劣、文政十二年落魄自殺した。

ヤマモトリヨウキチ 山本亮吉 諱は信。もと川北氏、長氏の醫恩中の三子で、安政四年藩醫山本天行の養子となり、刀圭を學んで瘍科を善くした。明治三十二年六月廿五日六十七歳を以て歿した。

ヤマモリ 山森 河北郡河村郷の森(部落名)は、明治中に至り山森と改められた。

ヤマモリイオリ 山森伊織 元龜元年尾張荒子に於いて前田利家に仕へ、後八百五十石を領し、元和三年隱居して伊庵といひ、寛永八年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヤマモリキチベエ 山森吉兵衛 初め伊左衛門。大坂後役に町口で槍功があり、元和三年父伊織の祿八百五十石を襲ぎ、御使番・御持筒頭から、寛永二十年御馬廻頭、寛文元年御旗奉行に任じ、祿二千五百五十石に進み、三年歿した。

ヤマモリスケノジョウ 山森助丞 初めて前田利常に仕へて二百五十石を領した。子孫藩に世襲する。

ヤマモリデンベエ 山森傳兵衛 初めて前田利長に仕へて四百俵を領した。子孫藩に世襲する。

ヤマモリナリアキラ 山森作明 通稱猪之助・九兵衛。天明二年父新左衛門の遺知百石を襲ぎ、定番御馬廻に班し、文化五年定檢地奉行、文政元年一ノ丸御廣式御用達に任じ、同年加増五十石を受け、十二年榮操院附御用